東京都におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組

東京都教育庁　松山　英幸

オリンピック・パラリンピック教育の趣旨

- オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、国際親善や世界平和に果たす役割を理解させる
- 世界の国々の文化や歴史を学び、交流することを通しての国際理解
- スポーツを通した心身の調和的な発達

進んで平和な社会の実現に貢献できる児童・生徒を育成

平成25年度までの取組

【学習指導要領に基づく学習（各学校）】

【都教育委員会によるスポーツ教育の推進】
・スポーツ教育推進校の指定
・アスリートの学校派遣（一日校長先生）
・スポーツ教育推進のための補助教材の活用

【スポーツ大会】
・中学生「東京駅伝」
・スポーツ祭東京2013、南関東総体2014（インターハイ）の開催　など

平成26年度の取組

- オリンピック教育推進校300校を新たに指定
- オリンピアン・パラリンピアンの学校派遣の拡充
- オリンピック教育推進の学習読本の検討を開始

オリンピック教育推進校300校の指定

【指定校数】
　幼稚園4園、小学校206校、中学校60校、都立高校24校、都立特別支援学校6校

【主な内容】
・オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、理念を学習
・参加国の歴史・文化を学ぶ国際理解や地域在住外国人との交流
・地域のスポーツ大会・イベントの運営支援　など

オリンピアン・パラリンピアンの学校派遣

【派遣規模】
62地区の全区市町村の小学校又は中学校及び都立学校8校の計70校へ派遣

【主な内容】
オリンピック選手やパラリンピック選手と児童・生徒の直接的な交流（実技指導や講話など）

オリンピック教育推進の学習読本の検討

【主な内容】
　小学校高学年編、中学校編、高等学校編
　都内全ての児童・生徒がオリンピックやパラリンピックについて詳しく学習できる教材を新たに作成

平成27年度の取組

【継続・拡充】
- オリンピック・パラリンピック教育推進校を600校へ拡大
- オリンピック・パラリンピック学習読本の作成
- オリンピアン・パラリンピアンの学校派遣

【新規】
- 在日外国人アスリートの学校派遣
- オリンピック・パラリンピック学習映像教材の作成

オリンピック・パラリンピック教育推進校600校の指定

【指定校数】
幼稚園7園、小学校397校、中学校149校、都立高校38校、都立特別支援学校9校

【主な内容】
・オリンピック・パラリンピック教育活動の実践研究
・諸外国の歴史・文化や外国語学習による国際理解教育
・日本の伝統的な礼儀・作法やおもてなしの心などの学習
・地域のスポーツ大会やイベントにおけるボランティア活動
など

オリンピック・パラリンピック学習読本の作成

【制作教材】
小学校高学年編、中学校編、高等学校編

【計画】

平成28年3月	学習読本の作成完了及び全校配布
平成28年4月以降	全校にて学習読本による学習を開始

オリンピアン・パラリンピアン等の学校派遣

【派遣規模】
都内公立学校80校程度

【主な実施内容】
オリンピアン・パラリンピアンと児童・生徒の直接的な交流（実技指導や講話等）

在日外国人アスリートの学校派遣

【派遣規模】
オリンピック・パラリンピック教育推進校30校程度

【主な内容】
・在日外国人アスリートとの交流を通し、その国の言語や文化、慣習等に触れ、国際理解を深める
・専門家の指導により、日本の伝統文化の紹介の仕方等を学習（おもてなし学習）

オリンピック・パラリンピック映像教材の作成

【制作教材】
・DVD等による映像教材を制作し、オリンピック・パラリンピック学習を充実
・都内全公立学校に配布予定

大会開催を契機に推進していく取組

【グローバル人材の育成】
・英語村の新設、JICAと連携した体験研修、グローバル人材の育成推進校10校指定（グローバル10）、国際バカロレアの導入　など

【伝統・文化教育の推進】
・伝統・文化に関する体験活動、日本のよさの理解と発信　など

【障害者スポーツの振興】
・特別支援学校における障害者スポーツの体験、障害者スポーツを通じた小・中学校等との交流　など

東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議

- 東京のオリンピック・パラリンピック教育の基本理念や具体的施策を検討中
- 学識経験者やオリンピアン・パラリンピアン等16名により構成し、専門的な見地から検討審議（平成28年3月まで）